

懐かしの市電に乗る！（「レトロでんしゃ館・地下鉄日進工場」見学）

2020.2.17

32期 青木 幸枝

皆様は昔、名古屋の市電に乗られたことが有りますよね！？ 私達参加者15名は、何十年ぶりかで乗ったんですよ！ 幼い頃、父に連れられて東山公園まで乗ったことを思い出しました。「意外とクッションいいねえ、ちょっと固いけど。」とは内山会長の言葉。通学で乗っていたそうです。「新瑞橋」の電停も有りました。その他、地下鉄東山線初期の通称「黄電」にも乗ることができました。開通時の市電や地下鉄の写真、ジオラマもあり、懐かしかったです。

次にヘルメットを被って修車工場へ入り、地下鉄車両の点検現場を見学しました。台車が並ぶ向こうに桜通線車両5両が横に並んで、



4年に1度の点検を待っていました。鶴舞線・桜通線車両は、重さ22t、長さ20mでドアが4つ。名城線・東山線は15mでドアが3つと、大きさが違うそうです。知っていましたか？ 違いはパンタグラフの有無にも。名鉄に乗り入れている鶴舞線は、パンタグラフの点検も必要で、6日毎に行います。（話を聞いている間にも、台車を運ぶ天井走行クレーンが私達の近くまで動いて来て、ちょっと怖かったです。）

外へ出ると、使用済みの車輪が4個1組で30組ほど並んでいました。鉄くず回収業者は純度の高い車輪を喜んで回収してくれるそうです。

最後に、先ほど門を入った時にびっくりした、巨大な掘削マシン（シールド工法）の説明を聞きました。実際に名城線工事で穴を掘った機械の一部分で、1日8m掘り進むそうです。

ガイドの村井さんの流暢な説明にプロ意識を感じながら、毎日のように乗っている地下鉄も、工場の皆さんのきちんとした点検のお蔭で安全に乗ることができるんだと、改めて実感しました。これから地下鉄に乗るときの意識が変わるかもしれません。

